

ジャグパル

JugPal

2001年3月1日 第11号



特別寄稿

【OPEN SESAME流クラウンにとってのジャグリング】

by RONE

はじめに:

OPEN SESAMEとは、クラウンデュオ「RONE & Gigi (ロネ&ジージ)」が、1990年に創立したシアター・クラウン・カンパニーのことです。

主宰者の RONE さんと Gigi さんは、劇場公演をこなす一方で、クラウンの養成校を運営したり、各種研修の実施など国内を問わず海外にまで幅広く活躍されています。

今回はRONEさんにクラウンから見たジャグリングについて寄稿いただきました。お楽しみ下さい。

[安部 保範]

約1ヶ月前に「ジャグリングについてもを書く」というお話をいただいたとき、正直ジャグリングの専門家でもない自分に何が書けるのかなり迷いましたが、クラウンとしての立場からなら何が書けるかもしれないと、これを書き始めることにしました。

最近OPEN SESAMEの門をたたく方の中にも、「ジャグリングをやりたいので」という方が本当に増えてきました。

そういうときには、よくお話を伺い何に関心があるのかをはっきりさせた上で、ジャグリングだけに興味のある方には知っている範囲内のサークルやスクールをご紹介しますことにしています。

私たちがお教えできるジャグリングは、あくまでクラウンのツールとしてのジャグリングで、ジャグラーになりたい方のニーズにお答えできるほどのジャグリングの技術はないからです。

では、クラウンにとってのジャグリングってどういうものなんでしょうか…?

クラウンの仕事は目の前のお客さんに笑われ、一緒に楽しみ、いい気持ちになってもらうことです。

どんなに短い作品でもその中には、ストーリーやキャラクターが必要で、それを表現する基本技術としてはクラウンニングや演技力がありますが、さらにキャラクターやシーンの必要に応じてマイムやマジック、そしてジャグリングの技術を使います。

こんなふうに、クラウンにとってのジャグリングはお話を見せたり、キャラクターを見せるためのアイテムともいえるわけですね。

どれだけたくさんのボールを操れるかとか、どれだけ難度の高いジャグリングができるかよりも、たとえば、3個ボールのジャグリングでどれだけお話を展開できるか、あるいは1個のボールでどんなおもしろいキャラクターが表現できるか、どんな日常的な道具やおもしろい道具でやるか、また、それぞれのジャグリングの中でどれだけ目的に添った表現ができるかという力が求められます。

前述のように最終目的は、キャラクターやお話を見せてお客さんに笑われることです。クラウンの中には、あえてジャグリングをしないクラウンももちろんいます。

クラウン的にはそういう人を「ジャグリングのできない人」とはいいません。表現のツールとしてジャグリングを選ばないだけのことなのです。



RONE さん(左)と Gigi さん(右)

OPEN SESAMEでは主にジャグリングは2通りの使い方をします。

ひとつはたとえば RONE & Gigi のように主にキャラクターのやりとりを見せるためのツールとしての使い方、もうひとつは「リチャード三世」の戦闘のシーンでのクラブを剣に見立てたクラブ・ジャグリングや恋のかけひきのシーンで揺れ動く心をボールで表したボール・ジャグリング、「青のアリア(タイタニック)」の海底シーンでのスカーフ・ジャグリングのように、シーンや状況を表現する使い方です。

共通していえるのは、確かに技術的にはジャグリングを使っていますが見せたいのはジャグリングそのものではなく、シーンやストーリーだということでしょうか。

ジャグリングのもうひとつの使い方は、尺の長いショーをやるときの効果的なカーブの演出方法としての使い方です。ショーを創るときはいかに飽きさせないか、とか、どこでどの大きさの笑いが欲しいかを考えます。

そんなときには、特にジャグリングとマジックはショーのどこに持ってくるかが演出のひとつのキーポイントになります。人は生理的に緊張したり驚いたりして、息を吸ったときにおかしなことをやると笑います。その息を吸うポイントをジャグリングで作ることもあるわけです。

おどろかせたり、スゴイ！という一瞬の後にギャグをもってきます。あるいは、緊張させたり、シリアスになったりする作品の後にジャグリングで空気を持ち上げてから、ばかばかしいギャグにつないでいったり・・・ということも考えられます。

こんなふうに、全体の流れのカーブを作っていく上でも、ジャグリングは効果の高いツールだといえます。

OPEN SESAMEではこのようにジャグリングを使いますが、もちろんクラウンの数だけその用い方はあるはずですよ。

ジャグリングをメインスキルにしているクラウンは、小気味よい難度の高いジャグリングでお客さんを笑わせ楽しませてくれますし、私はそんなタイプのクラウンを見るのは大好きです。

ここまで延々と、作品を創る上でのジャグリングについて書いてきましたが、今度はクラウンのトレーニングとしてのジャグリングについて少し触れてみることにします。

OPEN SESAMEのクラウン・スクールには、プロになりたい人向け、カルチャー向けと、それぞれ目的の異なるコースが2つあって、どちらもジャグリングは必須科目になっています。

ここでのジャグリングは「クラウン的思考回路を培うためのトレーニング」という位置付けになっています。もちろん、メインスキルにジャグリングを使いたいという生徒には主にその表現部分を教えます。

「クラウン的思考回路」というのは常に肯定的にものごとをとらえ受け入れていくことです。

そのときの状況に肯定的に反応し、含み咀嚼し、反応していく、場合によってはテクニックとして否定的に反応することもあります。基本は肯定です。

クラウンはお客さんと常にキャッチボールをしながら作品を成立させていきますし、また、たったひとつの面白いアイデアは、たくさんの没アイデアの中から生まれてきます。作品を成立させていくためにも、作品創りのアイデアを出すためにも、肯定的な思考回路を持つことは何にも増して大切なクラウンの必須技術なのです。

ジャグリングをはじめると1週間で3個ボールのバリエーションまでできるようになってしまう、本当にジャグリングが好きなのつもの中にはいて、それはそれで好きなことを追求していった欲しいと思いますし、逆になかなか思うようにいかない生徒もいます。

ここで一番学習して欲しいことは、できるようになるまでの過程です。

はじめてボールに触れる人は、カスケードなんて自分にできるんだらうか？と思うはずですよ。それが、何度も床に落ちたボールを拾っては練習を続けているうちにできるようになって、さらに、ハープリバースやリバースなどの技術までできるようになってくるのです。

ジャグリングは練習すれば、確実にできるようになってくることが、目で確認できるので達成感があります。

少しずつできるようになってくることを通して「できない」というのはただの思い込みだったのだということを経験します。

自分が今まで「できない」と信じていたことは、実は「やったことがなかった」というだけのことだったということを実感をもって覚えるために、そして「どんなことでも、練習すればできるようになる」ということをジャグリング以外での考え方にも応用できるようになることが、ここでの主な目的です。

また、練習にあたってはイメージ・トレーニングも大切です。ボールを落とすたびに「できない、できない」と自分に暗示をかけないこと、「できている自分」をイメージしながらアプローチすること、がポイントです。落としてばかりいる初期の頃は「床にボールを落とす練習と拾う練習」をさせる場合もあります。

少しジャグリングに親しんだ頃、OPEN SESAMEでは音楽にあわせてステップを踏みながらのジャグリングに入っていきます。ここでは、ジャグリングを使いつつクラウンに必要な全身のリズム感も一緒に培っていくわけです。

もちろん最初は海亀の産卵のようにたくさんのボールが床にころがりますが、こうして、いろいろ手を換え品を換え、現状を肯定的にとらえる練習をするわけです。

クラウンのジャグリング技術としてのレベルアップはこの先になります。ここで、クラウン的思考回路がある程度見についてくると、練習段階で人前で失敗することを恐れなくなります。

「今できない」ことは単に「まだ練習が足りない」だけで「永久にできない」ことではないことを知っているからです。失敗を恐れられないことが実はクラウンにとってはとても重要です。

なぜなら、クラウンはできないこと、失敗を笑われるのが仕事だからです。クラウンにとって馬鹿にされて傷つくプライドは邪魔なだけでなんの役にも立ちません。

OPEN SESAME流クラウンにとってのジャグリングと、そのトレーニングから得るものについて書いてきました。あくまでも現時点での個人的な所感です。時間や経験とともにまた変わってくるかもしれません。

また、正しい答えは人の数だけありますから、これだけが正しいとも思いません。

長くなりましたが、ふいふいふい、こんな考え方もあるんだ、と読んでいただければと思います。

All for You, It's our Pleasure !
Japan Theater Clown Company "OPEN SESAME"
<http://member.nifty.ne.jp/OpenSesame/>
[RONE <open-sesame@mbb.nifty.ne.jp>]



東洋医学から見るジャグリングのすすめ

【東洋医学から見るジャグリングのすすめ(第二回)】

突然ですが、今皆さんが読んでいるこのジャグパル、紙の上に文字が印刷してありますよね？
文字のない空白の部分、目をつぶって指先の感覚だけで当てることができますか？

実は、この指先の感覚で読みとろうとする作業で使う伝導路が、今回説明する感覚性伝導路です。

【感覚性伝導路と意識】

その名の通り、感覚を研ぎ澄ますときに使われる伝導路です。

指先で点字を読もうとしたり、夏に冷たい飲み物を飲み過ぎて胃がタプタプしているのを感じたりした時など、指先や筋肉、内臓の調子などを脳で認識しようとしますよね？これが感覚性の意識で、その道筋が感覚性伝導路です。

ジャグリングでは、投げたボールが戻ってきたことを手の触圧感で感じたり、深部感覚と呼ばれる筋肉や腱・骨膜などにある受容器で、ボールにかかる重力や軌道、また、自分の関節がどのような屈曲具合なのかを把握するのに必要な伝導路です。

【感覚性伝導路の特徴】

感覚性伝導路は、指先や手や腕で感じ取った事を脳に伝える訳ですから、より感じ取ろうとすればするほど繊細な作業が出来たり、内臓や筋肉の状態を把握することができます。

ジャグリングで言えば、既に来るようになった技を、より滑らかに、そして正確に来るようになったとき、感覚性の伝導路が鍛えられてきたと言えます。この時、筋や腱は弛緩の方向に向かいます。

ジャグリングポイント

感覚性伝導路は手から脳へ(伝わる方向から、別名・求心性伝導路と呼ばれている)

既に覚えた技をなめらかに、正確にするのに必要で、より感じようとする事で鍛えられる。

筋が弛緩状態(力が抜ける)になり、柔らかい動きになる。

前回と今回を合わせて読んで頂くとお分りの通り、下手な方は運動性の意識を多く使っているので動きが硬く、上手な方は感覚性の意識を多く使っているため、滑らかで柔らかい動きが出来ます。

「ボールを取りに行くな、落ちてくるのを待っていれば手が勝手に取ってくれる」

今なら、上手な方が良く言われるこの言葉が何を意味しているかお分かりですね？

自分からボールを取りに行くということは、「脳から手」という運動性伝導路を使うので一所懸命練習すればするほど筋肉は緊張し、関節の動きが悪くなっていくのです。

ところが、ボールが落ちてくるのを手で感じようとするば、「手から脳」という感覚性伝導路を使うので、力が抜け、美しく滑らかな動きになるのです。

人間の動作は、ジャグリング以外でも全て運動性と感覚性のバランスを成り立っています。しかし、現代人は忙し過ぎて、(特に日本人は)運動性が優位になっています。

では、この運動性の動作が染み付いてしまった体を、どうすれば感覚性優位に鍛え直せるかを考えていきましょう。

まずは、運動性と感覚性のまとめです。違いに注目して読んで下さい。

まとめ

【運動性伝導路】

脳から手へ(遠心性)
まだ出来ない技をとりあえず堅くなりながらも出来るようになるために必要。
やろうと強く思う事で鍛えられる。
筋肉は緊張し、関節も堅くなる。
堅く動きにくい体になり、無理な体勢をとれば体を痛めやすい。

【感覚性伝導路】

手から脳へ(求心性)
既に出来る技をより滑らかに、正確にする為に必要。
何も思わないで感じようとする事で鍛えられる。
筋肉は弛緩し、関節が柔らかくなる。
柔軟な体になり、伸びのある美しい動きになる。また、疲れにくい。

さあ、上記の比較からも分かるように、どうせ練習するならば美しく健康にも良い感覚性の伝導路を鍛えなければなりません。
そのためには、まず運動性の意識を極力使わない様にする事です。

ジャグリングポイント

【運動性の意識を使わないコツ】

何も思わない事です。やろうと思った瞬間に運動性伝導路を使ってしまいます。

力を抜いてリラックスし、出来るだけ筋力を使わず最低限の力しか使わないように心掛けましょう。

違う種類の技に移行するとき、前の動作の記憶が体に残るため、特に緊張しやすくなっています。意識の切り替えを素早く行い、前の動作を完全に忘れるようにしましょう。

【感覚性の意識で練習するコツ】

肩や肘、手首の力を抜いてブラブラ揺れる位まで脱力し、そのまま体の状態を維持してボールの重さや重力、投げたボールの軌道を感じるように、そしてそれらを総合したベクトルの方向を損なわないようにして練習しましょう。

地味な事ですが、関節の可動域を広くする為に、練習前の準備体操、練習後の整理体操をやりましょう。

常に体を柔らかく使うためには練習量よりも練習の質に目を向け、力の抜けた自然な動作になっているかをチェックしましょう。

§ 次回予告 §

次回からは、いよいよ、力点についてです。実は同じ技でも個人個人、使っている筋肉や力の伝わり方が違うので見え方も変わってくるのです。

皆さんは、ジャグリングは手でやるものだと勘違いしていませんか？

手だけで演じてる限りは手の神経や筋肉しか使っていないよ！

神経や筋肉は、全身にあるのですから、全て使わなければ勿体無いですよ。

それでは、次回もお楽しみに！



クラブスウィング ノ ススメ

【クラブスウィング ノ ススメ】

クラブスウィングって何？

ごくごく簡単に言ってしまうと
「両手に持った2本のクラブ(棍棒)をブンブン、クルクルと振り回す」芸です。
JJAなどのビデオを見たことがある人なら「あぁ、あれか」と分かる方もいるでしょう。

一番身近なものでは、女子新体操の棍棒の演技を思い浮かべてもらうとよいかも知れません。
ジャグリングのようにクラブを投げるのではなく、手に握ったままで振り回し、クラブが描く軌跡の美しさや動きの巧妙さ、クラブを振り回す肉体の美しさを見せるものです。

ある時は激しい音楽に合わせて荒々しく力強く、またあるときはクラシックに乗せて優雅に美しく、ソロで、団体で、と演じ方も様々であります。

大道芸や一般のジャグリングショーでクラブスウィングを見かけることは、残念ながらあまりありませんが、ジャグリングを職業とする人やジャグリングにまじめに取り組んでいる人の多くは、たしなみとしてクラブスウィングを学んでいます。

何が楽しいのか？何がよいのか？

『身体にいい』

もともとクラブスウィングは、植民地時代のインドで兵士の鍛錬のために行われていた運動でした。
宗主国であったイギリスに伝わって健康法として流行し、その後アメリカに伝わって20世紀初頭に大流行しました。

クラブスウィングが当時のオリンピックの陸上競技の一種目として採用されたのも、アメリカでの流行が背景にあってのことです。

このような歴史からも分かる通り、クラブスウィングは、腕、肩を中心に上半身の筋肉をくまなく使う、身体によく運動であります。

ジャグリングの練習を始める前の準備運動としても、とかく特定の筋肉だけを使いがちなジャグリングの後の整理運動としても適しています。
また肩凝りの予防と解消にも効果があるのでお試しあれ。

『身体の動きを意識するようになる』

クラブスウィングを美しく上手にするためには、

- (1) クラブの動きに逆らわず、自然に無理なく技をつないでいく。
- (2) まっすぐ正しい姿勢を保ち、手足をまっすぐ伸ばして動きを大きく見せる。
- (3) 音楽とぴったり合うようにクラブと身体の振り付けをする。

ことが大切です。これら3点は一般のトスジャグリングについても共通するポイントであり、クラブスウィングを練習することは、このような感覚を養う上でとても役立ちます。

また、クラブスウィングのクラブを振り回す動きは、バントリングやボイなどとも共通点があり、回転する物の動きと人間の関節の動きの関係を理解する上で役立ちます。

技術的な効能ばかりではありません。
技やルーチンをマスターし、自然に無理のない動きができ

るようになったときに身体を感じる気持ち良さや目に見える動きの美しさには、何とも言えないものがあります。

『失敗しない』

トスジャグリングの場合、どれだけうまくなくても、名人上手であっても、ドロップの危険性をゼロにはできないでしょう。

しかし、クラブを手に持ったままで投げないクラブスウィングの場合、技を完全に身に付けた後であれば、まず失敗することはありません。

と言うと、簡単で底が浅いように聞こえてしまいますが、難しい技はいくらでもありますし、完璧で美しいクラブスウィングをマスターするにはとても長い時間が必要です。チャレンジという点では、トスジャグリングと同等の楽しさがあります。

初歩の初歩

大きな鏡の前面に向かい合って立ってみましょう。
両手に1本ずつクラブを持ち、ノブの近くを普通の持ち方で握ります。
ちょうどクラブが腕の延長になるように。

両手をまっすぐ上に挙げ、クラブの先端からかかとまで垂直に1本の直線を通す気持ちで構えます。
そこから左右に腕を開いて下ろし、クラブが真下に来たら体の前で腕を交差させて最初の構えに戻ります。
そう、おなじみラジオ体操の「両腕を左右に開いて大きく回す運動・外回し」と同じです。

以下の点に注意しつつ、最初はゆっくりとやってみてください。

- (1) 左右を完全に対称にする。
- (2) 肩、肘、手首、クラブの先端を常に一直線上に保ち腕を大きく伸ばす。
- (3) 両肩、両足が作る平面と平行な平面上からクラブが外れないようにする。

慣れたら、連続してだんだん速く回していきます。
外回しに慣れたら、回転方向を反対にした内回しも試してください。

どうです？こんな簡単な動作でも、一度ではうまくできなかったのではないのでしょうか。

でも、正しくできるようになると、左右のクラブが描く真円の軌跡の美しさ、リラックスした肩関節の大きな動きの気持ち良さ、といったものを感じ取っていただけたらと思います。
「えっ、こんな美しい動きが自分にもできるのか！」と思えば、最初の一步を踏み出したこととなります。

どうやって学ぶか？

さて、クラブスウィングを学ぶにはどうしたらよいのでしょうか？

最善の方法は、できる人に直接教えてもらうことです。
1つの技を教えてもらっては、それを自習して自分のものにし、また次の技へ進む、といった具合に段階を踏んで学んでいくのがよいでしょう。

クラブスウィングの場合、建築のように土台から順番に積み重ねていかないと、しっかりした建物を建てることはできません。

直接習うことがかなわない場合はビデオか本で学ぶしかありませんが、残念ながら、最も優れたビデオと本が絶版になってしまっています。

他の本を使って基礎を独習することはできると思いますが、高度な技の独習はかなり困難であると言わざるをえません。状況の改善が強く望まれます。

最後に

クラブスウィングはジャグリングとは異なる技術です。しかし、両方を学ぶことにより、クラブジャグリングを縦系、クラブスウィングを横系として、幅と奥行きのある世界を楽しむことができます。新しい扉を開いてみませんか？

入門書、ビデオの紹介

書名: Modern Club Swinging and Pole Spinning (本)
著者: Anna Jillings
発行元: Butterfingers (絶版)
評:

クラブスウィングの教科書としてはベストですが、現在は絶版です。加筆・修正後に第2版が出るという話でしたが、未だに出ていません。説明文、イラストがともにポイントを押さえていて分かりやすく、基本から高度な技までを網羅しています。技だけではなく、ルーティンの組み立て方や、トーチやブラックライトを使った演出についても詳しく解説しており、古書としてでも入手できれば是非持っておきたい一冊です。

タイトル: Club Swinging with Alan Jacobs (ビデオ)
出演: Alan Jacobs
発行元: IJA (絶版)



フーズフー

【Topper Martyn】

IJAが発行している雑誌"JUGGLE"の最新号(Jan/Feb 2001)を開いて驚きました。あれっ、Topper Martynの特集だ。何故マジシャンの彼がジャグリングの雑誌で紹介されているの？私は彼のことを「ジャグリングがメチャクさいマジシャン」だと思っていました。

「世界のマジシャン・フーズフー～マジシャン人名録～(松田道弘著/東京堂出版発行)」にも紹介されていて、それによると1970年のFISMコメディ部門で第一位、1986年に4分間で69のトリックを演じ、「ギネス・ブック」に登録されたとのことです。(FISMというのは3年に一度開催されるマジックのコンベンションで、いわばマジックのオリンピックみたいなもの)

何度か来日していて、私も1994年横浜で開催されたFISMのガラショーで彼の演技を観て、とても強烈な印象が頭の中に刻まれたことを覚えています。(でもそういえばジャグリングの演技は覚えているのですが、マジックの演技は全然覚えていません。マジックを演じたっけ？)

個人的には好きな芸人なので、今回の雑誌JUGGLEの記事で彼のキャリアが詳細に分かりとてもラッキーでした。

1923年10月イギリスに生まれた彼は現在77才ですが、今なお健在で精力的にショーをこなしています。

評: 唯一の入門ビデオにして決定版とも言えるものなのですが、これもまた絶版です。現代クラブスウィングの第一人者によるお手本はとても美しいので、是非見ていただきたい。

書名: The Book of Club Swinging (本)
著者: Ben Richter
発行元: Circustuff
評:

初心者を対象とした入門書です。説明は簡潔で読みやすく、内容は中級程度の技までに絞られています。分解写真風のイラストで動きが分かりやすい反面、図が小さくて、重要ポイントの1つであるグリップ(クラブの握り方)の使い分けが分かりにくかったり、クラブの動きが不明瞭なところが多少あったりします。現状では唯一の入門書であり、手始めに読むには手ごろでしょう。また、スウィングの途中でクラブを投げるなど、他書にない技も紹介されています。

書名: Club Swinging (本)
著者: W.J.Schatz
発行元: Dube
評:

100年前のクラブスウィング・ブームの頃の本の復刻版です。大変詳しい本なのですが、難解で入門者にはお勧めしません。どうも文章が読みにくい上に、図と解説が何ページも離れていたり、あちこちの図をつまみ食いの再参照して図の数を節約したりしているために、読み通すにはかなりの忍耐が必要です。一方で、練習課題として挙げられている技のコンビネーションが非常に多く、全部順番にやり通すことができれば、かなりの応用力が身に付くと思われます。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]

2才の時にはステージに立っていたそうですから、既に75年もの間ショービジネスの世界で活躍していることになりました。

Topper Martynの父Victor Martyn(オーストラリア)は若い頃にこの世界に入り、マジシャンからジャグラーへと転身して成功をおさめました。

母Maude Florence Thyer(オーストラリア)はサーカスファミリーに生まれ、パフォーマーである父からコントーション、アクロバット、サイクリング、ダンスなどを習いました。

1910年にVictorとMaudeは結婚。デュオを結成し、コメディ・ジャグラーとして活躍。1911年に姉Decimaが生まれ、その後トリオとして活動。1921年にイギリスに移住。1923年に本人が生まれます。

"Juggling was a natural thing we did in our family."と彼自身は言っていますが、どんな家族だったのでしょうか！？

キャッチボールの代わりにクラブパスで親と遊び、食卓で使う皿は皿回しをしながら運び、雨の日はチンパランスをしながら傘をさす、なんて状態だったのでしょうか。(冗談)

とにかく早くも5才からジャグリングを学び始め、6才には3ボール、4ボールをこなしていました。

しばらくはファミリーで活動していましたが、14才の時にソロ活動を始め、それはマジックとジャグリングをミックスした構成によるショーだったようです。

ただその頃はどちらかというとマジックに傾倒していたようですが、多くのマジシャンがいるショーの世界で、最も若い彼はショーの内容を考え直して変えざるを得ませんでした。

オリジナリティのある演技を開発すべく、彼がとった方法は当時のジャグラーをリストアップし、彼らの演目を調べ上げるといったものでした。

それによると80%の芸人がクラブを、50%がball-on-stick (mouthstick)を演じていたので、レパトリーから除外しました。(しかし恐らく日本の芸人によって紹介されたであろうball-on-stick、すなわち"くわえパチ"の演目が当時これほどポピュラーなものだったとは、驚きです！)

そんな努力の中から彼の代表的なトリックである傘、旅行バック、ハットのジャグリングが生まれました。

演目のみならずモーニングスーツの正装スタイルでの演技など、人のしないことを心がけていたようで、イギリスでは初めてスケートをしながらかつてジャグリングをするなど彼は常にチャレンジし続け、キャバレー、パラエティホールなどありとあらゆる環境下で仕事をこなしてきました。

1950年に結婚。
1960年にスウェーデンに移住し、現在に至っています。

演技中の彼は、フフンッというような独り言とも掛け声とも息づかいとも鼻唄とも分からないような声を出しながらクレイジーに演じますが、その姿が故早野凡平と何故かたぶります。

何だかその動きを観ているだけで楽しくハッピーになり口元がゆるみ何回でも観たくなるのは、ボードピリアンとして超一流の証拠だからでしょう。

一流であればあるほどそのアーティストをジャンル分けするのは意味の無いことだとは思いますが、特に彼にはマジシャンだのジャグラーだの肩書きは一切不要です。

(豆情報)

サイト <http://www.komikerklubben.se/> の左フレーム内のArtist Indexをクリックし、Topper Martynをクリックすると彼の紹介記事が出てきます。
またサイト <http://www.komikerklubben.se/topper.htm> では彼の演技中の動画をほんの少し見ることが出来ます。

そう言えばTopper Martynのビデオがあったはずだと思いい、家の中を探索……
あった、あった。それではそのビデオをこれから紹介しましょう。

[安部 保範 <abesan@dream.com>]



ビデオ紹介

[Easy juggling for Magicians]

出演: Topper Martyn
制作: The T·A·T Production
(1994年/London, England)
収録時間: 100分
価格: 24.50ポンド



タイトル通りマジシャンを対象にしたセミナーを録画撮りしたものです。
マジックでよく使われる新聞紙、お札、コイン、パン、果物、シルクハット等を使ったジャグリングを紹介し、ジャグリングをマジックアクトでのちょっとしたスパイスとして活用してもらおうというのが狙いのようで、次から次へと彼のアイデアが披露されます。

しかし半世紀にわたってジャグリングをしてきた強者が演じるジャグリングを、例えば本人がほんの些細なトリックだと思っても、それを即座にマジシャンがマスターできるのか、いささか疑問です。

例えば新聞紙をコーン状(円錐状)にまるめ、尖った方を鼻に当てバランシングをするのですが、何と火がついているのです。
新聞紙が燃え上がってだんだん鼻先へと炎が近づいてくるのですが、ギリギリまで新聞紙を取ろうとしません。
こんな危険で難しいトリックをマジシャンの誰が必要と感じてやるうと思うでしょうか。

かと言ってジャグラーが見るにはそれほど目新しいトリックは無いので、少々中途半端なレクチャービデオに仕上がっています。

私がこのビデオで印象的だったのはトリで紹介された傘まわしです。
和傘を使つての傘まわしですが、彼のお気に入りのようでベタほめです。
くわえパチといい傘まわしといい日本(東洋)の曲芸文化の影響をここでも感じ、何だか嬉しくなりました。

[ビデオの内容]

PART ONE

Juggling a Magic for Kid Shows/Balancing Techniques and Effects/Juggling with Coins/Eating the Bun/Hat Spinning Techniques/Hat Balancing Techniques/Cannon Ball Juggling/Juggling with Playing Cards/Mid -Air Cutting Card/Techniques for Juggling Hats, Clubs and other Objects
Colour Changing Rings/Topper's thoughts on Magic
Misdirection, Manipulation and Children/Plate Spinning and Balancing Cigar, Playing Card and Bottle/Cigar Box Juggling

PART TWO

Some Advice on Selling Yourself/More, Box Juggling Tricks/Hat on Balloon Balancing/Ribbon Twirling/Catching an Egg/Handkerchief Gags/The Umbrella Gag

[安部 保範 <abesan@dream.com>]

[ジャグリング講座]

情報

講師:

森田 ツネヲ

曜日・時間:

第2・4火曜日の20:10~21:40

受講料:

15,000円(消費税別)/月2回3ヶ月

申し込み・問い合わせ:

近鉄文化サロン阿倍野

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-36

アベノセンタービル5~8階

(近鉄百貨店西向かい)

Tel.06-6649-0071

その他:

・毎月入会可能

・3月27日(火)20:10~21:40に体験レッスン有り
(2,000円)

【Cirque Ingenieux】

製作: CUP ROCK ENTERTAINMENT

(1998年)

時間: 95分

価格: 19.95USD(米ドル)

Webサイト:

<http://www.theatre.com/sites/public/cirque/index.html>



このCirque Ingenieuxは、前々から観たいと思っていましたがビデオ発売されていたのですね。何故かという、このサーカスでの音楽担当が「喜多郎」さんなのです。

そう言えば彼が音楽を担当したNHKの番組「シルクロード」に触発され、中国に立て続けに4回も旅行に行きましたっけ。

そうそう喜多郎さんはいよいよ今年の「第43回グラミー賞」を受賞しました！（ニューエイジ・アルバム賞）

今まで7回もノミネートされていたようですが、本当におめでとうございます。

日本人の受賞は、坂本龍一さん以来ではないでしょうか。

さてこのサーカスは劇場で公演されるため、テント公演とは少し様相が違ってきます。

一人の少女が、異次元のいわばイマジネーションの世界に足を踏み入れ、様々な体験をするといったようなストーリー展開の随所随所にサーカスアクトがちりばめられています。

ステージ上に夢の世界を描き出すのですから、舞台構成は当然の事ながら照明や音楽や衣装も雰囲気をかもし出しています。

繰り広げられる演目ですが、ジャグリング関連ではフープ、リング、ディアボロで、後はコントーション、ハンドトゥハンド、空中アクト、マジック(ブラックイリュージョン)等があげられます。

フープアクトは、Mat Plendlというパフォーマーでフープをスウィングしたりトスしたり、身体のいたるところで回す等なかなか見応えがあります。

リングとディアボロは、静岡大道芸フェスティバルでもお馴染みのJochen Schellがそれぞれ違ったキャラクタで登場し、華麗な演技を披露してくれます。

彼の手にかかるリングやディアボロは、まるで海の中で泳ぐ魚のごとく、滑らかで優雅に舞うようで、この怪しいな雰囲気の中に彼の演技はピタリとはまっています。

[安部 保範 <abesan@dream.com>]



書籍紹介

【寄席花伝書】

著者: 春風亭柳昇

出版: 青也コミュニケーションズ

価格: 1,500円(本体)

ISBN: 4-88105-536-4



昨年末にプロジャグラーのM.M.さんから紹介された本で、高校時代は友人らと"落研"を作って遊んでいた落語好きの私は即手に入れました。著者の柳昇さんはその頃から好きでしたし、何と言っても今なお私の憧れの的は"落語家"なのです。

さて世阿弥の花伝書についてはジャグパル7号で既に紹介してありますが、この本は柳昇さんが自分の経験から得られたことや信条としていることを花伝書風にまとめたものです。

ジャグリングと落語なんて全然別の世界のこのように思われるかもしれませんが、観客を相手にした芸能という切り口から見れば落語の名人から発せられる言葉には、ジャグラーにも通じるどころが多々あるように思えます。

柳昇さんの語り口は人柄がそのまま出ているようで、非常に優しく、とても読み易く仕上がっています。主に読んでいただきたいのは第三章で、いかに芸人としての自分を高めるのかということを中心に61もの項目があげられ、それぞれについて簡単ではありますが説明が付けられています。

普段の練習や人前で演じる際の数々の貴方の悩みに答えるべく、道しるべを示してくれるかもしれません。

【目次】

第一章 寄席の楽しみ方

第二章 落語の由来

第三章 修業

第四章 古典落語は不滅

以下は第三章の内容:

芸は模倣から始まる/師匠の影法師ではいけない/階段は一段ずつ登らなければ登れない/一本調子は眠くなる/"間"のない話は五分で飽きられるが"間"があれば/油紙が燃えるような喋り方はいけない。竹が、/芸は呼吸である/芸は盗め/芸を盗んでもネタを盗んではいけない/稽古をしてもらうならうまい人から/芸は前座からでも盗め/上手な人の芸を聞き、下手な人の芸も聞け/台本が書けなくてはいけない/新作の台本を書けない者は、古典落語に取り組み/親子の愛情、恋愛、犯罪は、これをテーマにして書けば/新作の中古は何の値打ちもない/人の新作をもらって演るようでは人気は得られない/新作は書いては捨て、書いては捨て/受けないネタを演っている、だんだん売れなくなる/魚屋さんは毎日仕入れをして商売をしている/芝居を見に行く/ハッパをかけられる/知性のない者は大物にならない/口惜しがる人は伸びる、ねたむ人はそれでおしまい/同じギャグを複数のネタに使ってはいけない/ネタのつかみ込みはいけない/勉強は自分のためにするのである/勉強の効果/素直な人は良く/忠告は天の声/短所を長所に変える努力/自分に合ったネタを選べ/ヨイショも芸の内/売れている人とおつき合いをしる/長年同じ芸を演っている芸が出し殻になる/人のテレビを見られない人は、その人に負けている証拠/出番前にいい芸を聞いてはいけない/稽古は声を出してやらないと駄目/本当の稽古は客のいる前で/売れれば馬鹿でもスター/売れている人はどこか光るものがある/どんな良い人でも売れなかったら尊敬されない/歳をとっても芸が新鮮なら売れる/芸は一直線には伸びない/演りにくいことに挑戦することが芸の巾を広げることであり/賭けごとに夢中になってはいけない/前の人を熱演したら体をかわせ/落語家になった以上、名人になるか、お金を取る人になるか/売れている人は謙虚/売れないと天狗になりがち/拍手の無理強いはいけない/同じことを演っても演る人によって、上品に見えたり下品に見えたり/声帯模写の人はだんだん似なくなる人がいる/先代の名を継いでもネタは継ぐな/名人芸も、何度も聞いていこうと感激が薄れてくる/下手な芸も、何度も聞いていこうと聞けるようになる

[安部 保範 <abesan@dream.com>]



サークル紹介

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は『札幌ジャグリングクラブ』の紹介です。

また日本ジャグリング協会のジャグリングクラブ紹介のページ<<http://www.juggling.gr.jp/>>にも国内の多くのクラブが紹介されています。

札幌ジャグリングクラブ (北海道)・・・本号
 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/2690/>>
 大津ジャグリングクラブ (滋賀)・・・10号
 <http://www.biwa.ne.jp/torisan/fr_juggling.htm>
 ジャグリングクラブ tossLife (東京都)・・・9号
 <<http://www1.linkclub.or.jp/swing9th/tossLife/>>
 大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)・・・8号
 <<http://patio.wo.to/>>
 京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・7号
 <<http://juggling-donuts.org>>
 福岡ジャグリングクラブ FJC (福岡)・・・6号
 <<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/ooshige/Juggling/>>
 筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会
 筑駒Jugglers (東京)・・・5号
 <<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>>
 所沢ジャグリングクラブ JUGFLY (埼玉)・・・4号
 <http://www2c.aimet.ne.jp/ichiro_t/juggling/jugfly/>
 綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号
 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>>
 ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号
 <<http://user.ecc.u-tokyo.ac.jp/g940656/index.html>>
 ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号

北里大学獣医畜産学部ジャグリングクラブ(青森)
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/5397/>>
 ジャグリング友の会 (東京都)
 <<http://www.hi-ro.com/sin/>>
 立教大学パフォーマンスサークルどりいむぼっくす
 <<http://www.rikkyo.ne.jp/00ia007t/doribo.htm>>
 小平ジャグリング倶楽部
 <<http://www.mailhost.net/masaki/kjc/>>
 横浜大道芸倶楽部 YDC (神奈川)
 <<http://www.01.246.ne.jp/yuji-k/>>
 市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)
 <<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>>
 千葉大ジャグリングサークル ポッサム
 <<http://www.sakurasoft.co.jp/possum/>>
 千葉東高校ジャグリング同好会
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/9745/>>
 静岡大道芸サークル WAPS (静岡)
 <<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/tomi/waps/>>
 New Japan Juggling Club (愛知)
 <<http://www.katch.ne.jp/mine/jug/>>
 金沢大学ジャグリング & マジックサークル JMC
 <<http://www3.et.tiki.ne.jp/conan2000/>>
 福井ジャグリングチーム FJT (福井)
 <<http://bishop.fuis.fukui-u.ac.jp/nishio/fjt/>>

【札幌ジャグリングクラブ】

札幌ジャグリングクラブは1999年12月に結成されたサークルです。

ジャグリングに興味はあったものの、どうしていいのかわからなかった私が、ジャグリングメーリングリストで札幌の情報を募ったところ、前会長の吉澤君を紹介してもらい、近所だったので実際に会い「ジャグリングクラブがないなら作ってしまおう！」とジャグリングをやったことも生で見たこともない私と、お手玉が専門のため、ジャグリングに関しては素人という二人で札幌ジャグリングクラブは、強引に結成されたのでした。

この時点で前会長と副会長の私だけという、かなり寂しいスタートでした。

早速ホームページを作り仲間を募集したところ、2ヶ月もしないうちに現在のほとんどのメンバーが集まったのです。札幌でジャグリングをしている人がいた！ということ自体、とても驚きであり、喜びでもありました。

メンバーで練習会を開くようになると、会長・副会長が一番下手であるという事実が明らかになりましたが。(笑)

現在メンバーは9人ですが、全てインターネットでこのサークルを知り入会したところなどは、他のサークルと違うかもしれません。

学校などに所属しているサークルではないので、練習場所確保など大変な面もありますが、メンバーの上達ぶりに刺激され、新しい道具と出会い、技を習得していくということが楽しくて、ジャグリングの面白さに魅了されています。メンバーそれぞれの活動も活発になってきて、現会長の戸城は札幌で大道芸人としても活動しています。

サークルを発足させてまだ間もないので、サークル運営に関することはみんなで相談しながらやっています。北海道では唯一(多分)のジャグリングクラブですので、ほかのサークルとの交流や、プロのジャグリングや舞台など、なかなか見る機会に恵まれず、そのあたりはとても残念です。北海道ではなかなか生のジャグリングに触れる機会が無いですが、今はインターネットがありますから多少なりとも情報を得ることができ、ビデオもあるのでそれを参考に練習していますが、是非ともプロの方たちの演技を見てみたいと思っています。

クラブとしての活動は月に3回、学校開放を利用して1回3時間の練習を行っています。

北海道唯一ということもあり、室蘭や千歳などかなり遠くから参加してくれているメンバーもいて、練習はお互いに教えあいながら、楽しくやっています。

クラブができるまで、個人でやっていたメンバーが多いので、同じ趣味を持つ者同士が集まるだけでも、とても刺激になりますし、上達の速度も違います。

いずれ活動の一環として、ワークショップなどの開きたいと思っています。

2001年の目標は、イベントに積極的に参加していくこと、練習の回数を増やすこと、メンバーを増やすこと、レベルの底上げなどなど、やることは山積みですが、がんばっていきたいと思います。

年齢、性別は問いませんので、ぜひお気軽にご参加ください。

北海道に来られることがあれば、ぜひ札幌ジャグリングクラブにお立ち寄りください。ホームページも開設しています。

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/2690/> (ショートアドレス <http://www2.to/sjc/>)

[副会長: 三浦 ちゃんた 慈子 <chanta@pop21.odn.ne.jp>]



ジャグリングと私

【山田光太郎さんの場合】

皆さんはじめまして。千葉市の片隅で、クラウン(道化)を演じている山田というものです。芸名はクラウンQ。7歳と5歳の男の子のパパでもあります。

私がクラウンになったのは5年前ほど前。もともとジャグリングには興味があり、パソコン通信で知り合ったチャン助さん(この「ジャグパル」の発行をしている安部さんです)に、道具の個人輸入の方法や練習の仕方について手ほどきを受けていました。

バルーンモデリングをはじめたのもチャン助さんの勧めがあったからで、近所の子供たちに作ってあげたり、長男の通っていた幼稚園のお楽しみ会で作ったりしていました。

旅行に行く時も必ず風船を携帯しては、列車の中でグズっている子や現地の子供に作ってあげて、ずいぶんコミュニケーションの役に立ったものです。

私がクラウンになりたいと思ったのも、たぶんこのバルーンモデリングがきっかけだと思います。やっている方は皆さん経験なさっていることだと思いますけど、作る過程を見ている子供たちの目がキラキラと輝いて「今、幸せなんだ。この子」という実感がありません。そして手渡した時の笑顔。

バルーンモデリングに出会ってほんとよかったと思います。

ただ、子供たちの反応は様々で、中にはまったく関心がないようにキョロキョロと別のところばかり見ている、出来上がった風船を渡しても礼もろくに言わずに、無表情で奪っていく子もいますよね。

最初の内は私も「可愛げのない子だな」とつまらなく思っていたんだけど、ある時そういう子のお母さんが私のところに来て「うちの子愛想がなくてごめんなさいね。でも前に作ってもらった犬をととても大切に、眠る時も離さなかったんですよ」と言ってくれたりして。

それ以来あまり子供たちの表面的な姿にとらわれないように気を付けています。

ろくに知識も訓練もないまま、ある日ふとクラウンになりたいと感じて、無謀にもクラウンになってしまったのはなぜなのか。

今でもよくわかりませんが、一見わがままだったり、乱暴だったり、無表情だったりする子供たちの奥にひそんでいるはずの無垢な心に触れたかったからかもしれません。

近所の小父さんとして風船を作ると彼らはそれなりの敬意を払ってくれますけど、クラウンとなるとまったく情け容赦ないですからね。馬乗りになられたり「ニセの鼻なんだろ」と言っていきなり赤鼻をもぎとられたり。

でも、一番つらいのは怖がられること。なにせあのメイクですから。時にはお母さんにまで「こわーい」と逃げられたことがあります。そんなに怖いですかね。私のメイク。

しかしそれも、ある時プロのクラウンさんに「そういう時は隠れて顔をみせないこと」と言われて「あっそういうことか」と妙に納得して、今ではそういう状況を逆に楽しんでおりますけど。

とにかくクラウンは子どもの奥にある無垢な心を常に信じていないとできないものというのが実感です。

ジャグリングに関しては、なかなか上達しないまま、最近では練習もサボりがちなので大したことは言えません。

ただ、ボールやクラブは成功することよりも失敗することに重きを置いています。実はうまいのに、わざと失敗しているように、ぶざまなんだけど、多少余裕を持って失敗する。これってすごく難しい。それも本当はあまりうまくない私がやるんですから大変な芸です。ハットジャグやスピニングボール、それに皿回し。これらはクラウン向けの種目だと思うのでよくやります。

ジャグリング以外には簡単なマジックやパントマイム。特にパントマイムは習いはじめてそろそろ2年になり、これからのクラウンQのパフォーマンスの核になるものだと考えています。

私の先生は「パントマイムは心を伝えるもの」とよくおっしゃっていて、テクニックの背後にある「心」を大切にするようにと指導なさっています。

いきおい私のクラウンも「心」に重きを置いて演じているつもりなのですが、これがなかなか難しい。先生のマイムは「心」がむき出して動いて見えるんですよ、ほんと。

パントマイムの練習は身体表現という面でも、人に見せるジャグリングを目指す方には役に立つと思いますけど、それ以上に演技をしている時の気持ちを表現するのに必要なスキルだと思います。

楽しい演技には楽しい顔の表情と動き。特に身体全体が楽しく見えるというのはかなりの訓練が必要です。またクライマックスなどの真剣な演技をする時にはそれなりの緊張した雰囲気が必要でしょ。しかもそれらが常に優雅であれば申し分ないわけです。

「ジャグパル」に載せていただくのに、あまりジャグリングに関係のないことばかりで申し訳ありませんでした。

ただジャグリングはいろいろなジャンルのパフォーマンスとつながっています。皆さんも時にはジャグリングをはみだしてみるとおもしろいんじゃないでしょうか。

クラウンQをどこかで見かけたらぜひ声をかけてやってください。では、ごきげんよう。

【山田 光太郎 <clownq@my.email.ne.jp>】



ジャグラー 一年生



特別寄稿

【心の中から上手になろう！！】

by 石川 健三郎

公園で練習をしていると時々人から「いやぁ、スゴいそんなこと私には出来ない」なんてことを言われることがある。

しかし、最初から僕も出来たわけではなくて、いつも練習をしているから出来るようになったのだ。日々の積み重ねの結果が今の自分である。

「出来る人と出来ない人の差」と言うのがある。皆さんはこれをどう考えるだろう？東急セミナーBEで教える様になって気が付いたことなんだけど、この差ってある。確かにある。

でも、簡単にその差を埋める方法がある。僕が考えるにこの差って、まず身体能力以前の問題が大きい。

例えば、ジャグリングを初めて体験する人が思った様に上達しないと「自分はジャグリングに向いていない」とたった数分で答えを出してしまうことがよくある。

ここで考えて貰いたいのが、ジャグバルを読んでる皆さん誰しもが簡単にカスケードが出来たわけではないと思う。ある程度はそれなりの時間を練習に費やしたに違いない。

ほんの数分やった段階で出した答え、この「早過ぎる結果」を出してしまうことで上達する可能性を自ら止めてしまっている。こう言った人たちは「出来ない」のではなく「やらない」だけ。

物事やらなければ何も出来ない。「出来ないからやらない」ではなく「やらないから出来ない」のではないだろうか。

「一年くらいやれば、いくら下手な私でもカスケードくらいは出来るだろう」と言うくらいのおんぴり構えていれば、ストレスも溜まらなく、楽しくジャグリングに接せられるだろう。

楽しくリラックスした状態からは何が得られるかは皆さん承知のことだろう。

何か難しい技などにに取り組むときには、長い目で見て結果を出すのが良いと思う。

また、出来ない人の中には自分の能力が劣っているのではなく、道具のせいにする人もいる。

確かにバランスの悪いクラブや大き過ぎたり小さ過ぎたり、軽過ぎたり重過ぎたりするボールでは順調な上達は望めないだろう。

でも、一般的にジャグリングに適しているビーンバッグを使いながら「私の手は小さいから出来ない」「ボールが大き過ぎるから出来ない」と言う人も中にはいる。

道具のせいにする人もいる一方、隣ではそんなことを考えもせず、黙々と練習に励む人もいる。

「道具のせいにする」こう言った人たちにはこう考えて貰おうとアドバイスをする。

「人がやって出来ているんだから、あなたにもそのボールで練習さえすれば出来ますよ。他人が出来てあなたに出来ない技ではないです」と。

確かに9ボールや7クラブと言ったようなものは、選ばれた人たちがそれを習得する為にある程度、適正な時間を費やさなければ出来ないものもあるが、物事の基本とは誰でもが出来うるものが殆どだと思う。

最近僕も気が付いたことだけど、「人がやっていること」って「自分にも出来る」ことが多い、と言うこと。勿論今すぐに出来るわけではなく、ある程度の時間を費やせばの話しだけ。

以上のように、出来ないことの多くは自分の心のどこかにその原因がある場合もある。

まずは自分の心の中にある上達の妨げになるものを取り去る。

これだったらジャグリングの上手い下手に関係なく誰にでも出来るのではないだろうか？それが出来たら、それだけでもジャグリングに対する姿勢が上達したことになるので、きっとジャグリングの腕前も今まで以上に上達するはずですよ。

「出来ないからやらない」「難しいからつまらない」と言う考えを「出来ないから練習する」「難しいから面白い」と言ったように考え方をやってみると肩の力が抜け、ジャグリングのことを嫌いにならないで付き合っていけるのではないだろうか？

ジャグリングの一番の上達のコツは「長く続けること」だと思うし、ジャグリングって単純だけど簡単じゃない。だから奥が深くて人々を魅了する力を持っているんだと僕は思う。

編集後記

プロフェッショナルの方々に、いわばノウハウとまで言えるような大事なことをジャグバルのために書き下ろしていただき、それを読むことができる私を含めた読者の皆さんはホント幸せモンです。

ジャグバルは私という一個人が野次馬根性丸出して、単なる趣味として発行しているものです。

従って特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係していません。

え〜っ、限られた小遣いの中から編集、印刷、発送しています。それで、あのぉ〜、だから……切手の寄付など大歓迎です。

ジャグバルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebSite: <<http://homepage1.nifty.com/abesan/>>

編集発行人: 安部保範

住所: 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

E-mail: abesan@dreamcom Nifty: QGB02014

WebSite見世物広場: <<http://plaza4.mbn.or.jp/~chansuke/>>



旅人

by 高橋 さとみ <luna@jttk.zaq.ne.jp>